

ジェネリック医薬品メーカーの MR による医薬品情報の提供・収集活動に関する調査

○藤島 孝之^{1,2}, 堀 里子^{2,3}, 佐藤 宏樹², 三木 晶子², 澤田 康文²(¹日医工,²東大院薬,³東大院情報学環)

【目的】 医薬情報担当者（以下 MR）は医薬品情報の医療機関への提供と、医療機関からの医薬品に関する市販後情報の収集を業務としており、「医薬品の適正使用と育薬」に重要な役割を果たしている。MR の医薬品情報の提供・収集活動（以下、情報活動）に関する実態調査はこれまでも報告されているが、ジェネリック医薬品（以下、GE）の MR のみを対象とした報告はない。そこで本研究では GE メーカーの MR を対象としたアンケート調査により、情報活動の実態を調査し、GE メーカーの MR の抱える課題やニーズを明らかにすることを目的とした。

【方法】 GE メーカーである日医工（株）の MR を対象として、情報活動についてのアンケート調査を実施した。重要と考える情報、不足していると考えられる情報、医療機関からよく質問される情報等を質問項目とした。

【結果・考察】 243 件（回収率 89%）の回答を得た。MR が医薬品紹介時に重要と考えている情報としては、内用剤では製剤設計（63%）、効能・効果・適応症（57%）、供給体制（56%）、注射剤では原体（原薬）（69%）、供給体制（69%）、製剤設計（44%）、外用剤では使用感（83%）、製剤設計（49%）との意見が多かった。不足と感じている情報については剤形による回答傾向に違いはなく、製剤設計、原体、供給体制の回答率が高かった。医薬品紹介時に医療機関からよく質問される情報は、内用剤では効能・効果・適応症、供給体制、製剤設計、注射剤では供給体制、原体、効能・効果・適応症、外用剤では使用感、供給体制、効能・効果・適応症の順に回答率が高かった。今回の調査から、製剤設計や原体に関する情報は、MR が日頃の情報活動の中で重要と考えており、医療従事者からのニーズも高い反面不足している情報だと認識していることが明らかとなった。